

おじいちゃん おばあちゃん いつもありがとう*

はにゆうしりつとしょかん

「うさこちゃんのおじいちゃんへのおくりもの」

ディック ブルーナ/ぶん 福音館書店 E/ブ
もうすぐ、ふわじいちゃんのお誕生日です。でも、



うさこちゃんはおくりものを何にするか、まだ決めていません。一生懸命考えたうさこちゃんは、毛糸を使って、何かいいものを作ろうとします。

「おじいちゃん」

ジョン バーニンガム/さく ほるぷ出版 E/オ

よくきたね元気かい？ おじいちゃんのところ



ろに遊びにきたおんなのこ。ふたりのやりとりをやわらかい筆致で描きます。

「だいじょうぶだいじょうぶ」

いとう ひろし/作 講談社 E/ダ

大きくなるにつれて、こまったことやこわい

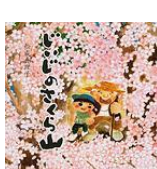


ことが、どんどんふえていくけれど、おじいちゃんのおまじないがあれば大丈夫。

「じいじのさくら山」

ふくだ じゅんこ/文 大日本図書 E/ト

春になると、毎年きれいに花を咲かせる山



ざくら。これは、そんな名もないさくら山をつくったじいじとその孫の、心あたたまるお話。

「いいからいいから 5」

長谷川 義史/作 絵本館 E/イ/5

ある日、宇宙人がやってきた。おじいちゃん



が宇宙人たちをうちにあげて、お茶を出すと、宇宙人たちは、地球を気に入ったので帰ると言い…。

「おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん」

長谷川 義史/作 BL出版 E/オ

「ねえ、おじいちゃん。おじいちゃんのおじ



いちゃんは、どんなひと？」5歳の男の子の素朴な質問から、時がどんどんさかのぼります。

「だってだってのおばあさん」

佐野 洋子/さく フレーベル館 E/ダ

「だってわたしはおばあちゃんだもの」それ



が口ぐせのおばあさん。しかし99歳の誕生日にろうそくが5本しかなかったことから、おばあさんの口ぐせが変わり…。

「エマおばあちゃん」

ウェンディ ケッセルマン/文 徳間書店 E/エ

72歳、ひとりぐらしのエマおばあちゃんがこ



っそり始めたないしょのことは…。エマおばあちゃんのおあたたかさが伝わってくる絵本。

「ほろづき 月になった大きいおばあちゃん」

沢田 としき/作 岩崎書店 E/ホ
田舎から帰るとき、大きいおばあちゃんは「ま



たおいで」と見送ってくれる。やがておばあちゃんは亡くなるが、ユキは月の中から照らしてくれるおばあちゃんのお愛を感じる…。

「もったいないばあさん」

真珠 まりこ/作 講談社 E/モ

もったいないばあさんが来るよ。お皿の上の



食べ残し、お茶碗についたごはんつぶ。もったいなーいと言ってくるよ。ものを大切にする心がそだつ絵本。

「あらまつ！」

ケイト ラム/文 小学館 E/ア

おばあちゃんのところへ、初めてお泊りにい



ったパトリック。「さっさと寝なさい」と、おばあちゃんは言うけれど、早く眠りたくないパトリックは…。

「ばばばあちゃんのおいしいもたいかい」

さとう わきこ/作 福音館書店 E/バ

秋も深まったある日、落ち葉を集めたき火をはじ



めたばばばあちゃんのお目当ては焼いも。でも、子どもたちに誘われじゃがいもやらバナナやりんごまでたき火の中へ…。

「おばあちゃんすごい！」

中川 ひろたか/文 童心社 E/オ

「ひろたかなり」という子どもを探して園に



やって来たおばあちゃん。けん玉、お手玉、何でも上手なおばあちゃんは、みんなと一緒に散歩にも行き…。

「うさこちゃんのおじいちゃんとおばあちゃん」

ディック ブルーナ/ぶん 福音館書店 E/ブ

うさこちゃんは、時々おじいちゃんとおばあ



ちゃんをたずねます。おじいちゃんにスクーターを作ってもらった、うさこちゃんは、とてもよろこんで…。